

RiskFinder 9.0 提供開始 (Android OS9.0 対応版)
～ 10月11日リリース ～

タオソフトウェア株式会社(東京都中央区、代表取締役：谷口 岳、以下 タオソフトウェア)は、2018年10月11日、Android アプリの脆弱性診断ウェブサービス「RiskFinder (リスクファインダー)」の新版となる「RiskFinder9.0 (Android OS9.0 対応版)」をリリースしました。

今回リリースした「RiskFinder9.0 Android OS9.0 対応版」は、Android の最新 OS である、Android9.0 に対応したものとなります。

【「RiskFinder」について】

「RiskFinder」は、Android アプリの脆弱性(セキュリティホール)を診断する Web サービスです。ブラウザを経由してアプリケーションファイル(.apk ファイル)を「RiskFinder」サーバへアップロードするだけで、すぐに診断結果を得ることができます。「RiskFinder」は 2013 年 4 月のサービス開始以来、キャリアやアプリ開発会社、アプリ検証サービス会社、金融会社など、多方面で利用されています。

【RiskFinder9.0 Android OS9.0 版】

Android9.0 では指紋機能がより包括的な機能である生体認証に変更、セキュアな情報を格納することができる KeyStore の機能アップ等、より安全なアプリケーションが作成できる機能が追加されました。

2018 年度のアンドロイドのセキュリティの強化の一つに既存アプリケーションのセキュリティの強化が上げられます。Android OS 自体のセキュリティは年々改善されてきており、現在は安定した物になってきております。しかしながら古くからあるアプリケーションは、それらの OS の機能を使用していない事が多いためユーザを危険にさらす事があります。このため新しい機能を使っていないアプリケーションは Google Play ストアにバージョンアップ登録や新規アップロードできなくなりました。

さらに、Android 9.0 では非公開 API の利用制限機能が上げられます。リフレクション等を用いて公開されていない API を使用しているアプリケーション多数存在します。非公開 API はライトグレイリスト、グレイリスト、ブラックリスト等に分類され、警告を表示や動作をしないようになりました。リリースしているアプリケーション本体はもちろんの事、アプリケーションで利用しているライブラリも非公開 API を使用しているかのチェックが必要になります。

「RiskFinder 9.0」は、上記の変更やガ指針に関する事項をチェックし、問題箇所を指摘し、改善案を提供致します。また 2018 年 9 月 1 日に、公開された JSSEC、「Android アプリセキュア設計・セキュアコーディングガイド」にも対応しております。

【リスクファインダーについて】

社名 : タオソフトウェア株式会社

代表 : 代表取締役 谷口 岳

所在地 : 東京都中央区新川 2-3-1 セントラルスクエア 8F

URL : <http://www.taosoftware.co.jp/riskfinder>